

『 たくましいからだ、ゆたかなこころ 』

- 健康で生き生きした子ども
- 自主的によく見、よく聞き、よく考える子ども
- よく遊ぶ子ども

本園では発達に応じたしつけ(社会の一員としての責任)と豊かな愛情(信頼され、認められている喜び)を基盤に、上記の目標を達成する。それには教師と子どもの信頼関係に支えられた生活が展開される幼児教育を目指すものである。

[ II ] 目標や計画

幼稚園教育要領に基づいてその内容を理解し、教師相互の共通理解を図り、教師集団の資質を高めること(園内研修)、又、保護者との関係を密にして(PTA 行事への積極的参加)等を通して、保護者が何を考えているかを確認しながら、本園がこれから将来どうあるべきかの指針を探る。

[ III ] 評価項目と具体的計画

評価項目	具体的計画
1) 教育課程の編成や実施について、教職員間の共通の理解を図る。	全体会議、学年会議において意見を出し合いながら、本園の子ども達に合う保育理論を構築していく。
2) 教職員、並びに教育の質を高める為の園内研修の実施。 (教師は年1回の研究保育を行う。)	年度に亘り、月1~2回相互参観を行う。 事前研究—(参観)—事後研究を重ね、よりよい保育を目指している。特に本年は『音楽リズム・表現・ワークブックの指導方法』を共通テーマとしている。
3) 遊びを通して生き生きとした子どもの活動を見ることができたか。(遊びを通して工夫や協力、年長児としての自覚)	遊びの内容を高める為に、効果的な環境を設定する。 (園庭の固定遊具を新設) 異年齢児の関わりは自由遊びの時間に遊びの提案を行い、活動の活発化を図る。特にグラウンドは集団遊びの場として積極的に活用する。
4) 期末、行事毎に担当学級の子どもの様子と課題を、学年会や全体会に報告し情報の交流を行う。(子どもの実態把握) 保護者への啓蒙(情報の発信)	当該学年の共通の保育計画、担当クラスの月案、週案、日案には子ども達の日々の様子や行動を反映させたものであるよう努めている。 又、基本的に子どもの良い面を認める。 「園だより」「学級通信」を通して、教育方針やクラスでの子ども達の様子、又、教師の思いを発信し、幼稚園への理解を深める。コロナウィルス感染予防の為、4月初めに行う学級懇談会の実施は見送る。

<p>5) 校務分掌と教職員の体制づくり</p> <p>校務分掌や行事の係担当が適切に機能し、日々の保育が円滑に行われているか。</p> <p>(園の運営、責任体制、職員組織)</p>	<p>校務分掌は細かく規定し、1人、1~2の校務を受け持つ。</p> <p>これは園長の任命による。又、それぞれの行事の担当は自己の希望により受け持つ。いずれも教師の意識を高揚させ、積極的に取り組める。</p>
<p>6) 教職員の組織作り</p>	<p>* 各学年のリーダーを中心に学級、発達を踏まえた異学年間の連携を密接にすることが出来た。</p> <p>* 3歳児の保育補助に、フリーの教諭を常時配当し、保育の充実を図ることができた。</p>
<p>7) (安全に関して) 令和4年度、危機管理マニュアル、避難訓練の検証。</p>	
<p>イ. 園の施設、設備、遊具等を定期的に安全を確認する。</p> <p># 園庭遊具</p>	<p>(一人の子どもの命を見つめる)</p> <p>教師が危険予測の意識を高め、環境を整え、遊びや行動の仕方を指導する。</p> <p>園庭遊具の安全は常に心掛けて常時確認を行う。</p> <p>担当は安全教育の係が主導し、少しでも改善が必要な場合は、速やかに修理する。</p>
<p>ロ、不審者、侵入者</p> <p>園児、教職員の安全をどのように確保するのか。</p> <p>(危機管理マニュアル)</p>	<p>正門、通用門、玄関等はすべて自動施錠、モニターによる監視。教職員、保護者は出入り許可名札。</p> <p>緊急時侵入者に対し、教師は緊急用ホイッスル携帯、緊急を知らせるカードを常備、警告音楽の放送など、素早い対応をして周りに知らせる。</p> <p>危機管理マニュアル見直し</p> <p>防犯教室を実施し、不審者への対応方法を子ども達に教え、注意喚起する。</p>
<p>ハ、火災、地震等の災害</p> <p>園児をどのように避難させるのか</p> <p>* 防災の手引きの見直し</p>	<p>いろんな場合を想定して、子ども達の安全を確保する為、避難経路、避難時の態度、避難、保護等について常日頃から訓練を繰り返している。</p> <p>* 全園児の訓練は月一回</p> <p>本年度実践に基づき見直しと冊子の配布</p>
<p>ニ、交通事故の防止</p>	<p>交通安全指導を実施。信号機、横断歩道をグランドに設置し、体験させながらの指導を行う。</p>

8) 預かり保育の実施により、子ども達に遊びの場を提供し、保護者の要望に応える。(時間外保育)	早朝8:00、18:00迄の保育時間外希望児の受け入れ。 非常勤講師、専任教諭が担当。
9) PTAから寄せられた具体的な要望や意見の把握に対応。 (教育講演会・観劇、夏祭り、子どもフェスティバルなど)	コロナウィルス感染状況も落ち着きを見せ始め、PTA活動(諸行事)も少しずつ開催。夏祭りやおもちつき、音楽鑑賞会を実施。 保護者には子育てに対する啓蒙を図る。(機関紙の発行、年3回(学期末))
10) 法人の財務状況を公開する。	平成10年度～12年度にかけて、園地買収、ホール建設。 その後、平成19年度、平成22年度に隣接地を買収。 園地の拡充を図り、借入金を重ねたが、会計士の指導により適切に処理されている。令和4年に至る。

[IV] 今後、取り組むべき重点的課題

課題	日々の取り組みの努力目標
教職員の質を高め、教育内容の充実を図る。 ①子どもを保育の中心に据える。 ②研究保育のあり方を考える。 ③教職員の意思疎通を図る。 ④自己を点検する。	* 園内研修、相互参観を実施する。 * 一人一人の子どもの実態を把握して、日常の保育に反映させることに努める。 * 職員会議を活性化し、意思疎通を図る。 * 自己点検をし、保育を見直し自己評価に取り組み、客観的に保育を見直し、次の保育への足がかりとする。
保護者の期待をよりの確に把握する。 本園の建学の精神を学ぶ。 保護者の期待を知る。	* 保護者が園に対してどんな幼稚園像を描いているかを個人面談、学級懇談等を通して把握し、反対に私学としての建学の精神の独自性を伝える努力をする。

[V] 目標や計画の総合的な評価

取り組むべき10評価項目について、全教職員が共通に理解し、ひとりひとりが自己を適切に点検する様子が見られ、それぞれの保育を客観的に振り返り、今後の保育にその経験を取り入れながら、より充実した保育を実践してきたが、より一層の努力を重ね、今後、取り組むべき重点課題について話し合いを重ねながら研鑽を積み、充実した保育を目指したい。

特に園児の大きなけがの発生を防止するにあたり、園内の環境設定、子ども同士の遊び方や人間関係をよく把握し、注意することが大切である。また、教師間の情報共有も強化する必要がある。

又、教職員組織を明確化し、校務分掌について担当役割についての責任と幼稚園全般に亘り、教職員集団の意識を喚起し、教師自らが積極的に取り組むことを確認し合う。

[VI] 財務状況

公認会計士の監査により、適正に運営されていると認められている。

青い鳥幼稚園関係者評価表 — 令和4年度 —

評価項目	評定	評価の内容について意見、感想をご記入ください。
1)教育課程への取り組み	A	カリキュラムにおいては昨年度の反省点を活かして見直しを行い、全体で共通理解ができるよう努めている。
2)研究保育	B	教師間で保育を見せ合い、反省会を実施することで、新しい気付きや発見があり、保育の質を高め合っている。
3)遊びの工夫	A	新しい遊具の配置によって、子ども達がいきいきと外遊びを楽しむ姿が見られた。
4)イ)学年会、職員会議での情報の交換	B	全体会議においては、決まった人ばかりが発言し、進行している傾向にある為、一人ひとりが積極的に意見できる環境づくりが必要である。
ロ)保護者への啓蒙	A	園だよりや定期的なおたよりの配布によって、日頃の子ども達の様子を伝えられるようにできた。
5)校務分掌	B	係のリーダーに任せきりにならず、一人ひとりが係としての責任感を持ち、行動していくことが望ましい。
6)教職員の体制づくり	B	学年のリーダーが、フリーを含めさらに連携を取り、仕事を分担したり、フォローし合える組織になるよう努めたい。
7)安全教育 イ)遊具	A	定期的な安全点検を実施することで、事故防止に努められた。
ロ)不審者	A	教師間の共通認識に加え、毎年子どもに対しても防犯教室を実施することで、事故防止に努められた。
ハ)火災、地震	A	定期的な避難訓練では、教師も緊張感を持って参加することができた。
ニ)交通安全指導	A	交通安全指導の実施により、交通ルールの理解を深めることができた。
8)預かり保育	B	預かりの担当教師と引き継ぎがうまくいかないことがあったので、より密に連携をとっていきたい。

9) PTA活動との関わり	A	PTAと幼稚園が一丸となって幼稚園行事をよりよいものにできている。
10) 法人の財務状況の公開	A	令和4年度財務状況については、公認会計士より適正に運営されている旨認められている。
<p>#自己評価について、総合的な意見、感想があれば記述してください。</p> <p>昨年度の見直しや反省を行うことで、子どもにとっても職員にとっても、よりよい環境となるよう改善に努めているが、早期退職者が絶えない問題は解決していかないので考えていきたい。</p>		

### 幼稚園関係者評価委員の所見

教育目標にむけて、現場での保育が発展的に行われている。園児の安全対策は昨今の事件、事故等も考慮され、対策がなされている。集団での仲間意識の育成、教育課程に則した園児の発達、特性を見極めた保育等、子ども達のいろいろな経験を通し、意識を高めようとする取り組みについて、教師間で共通意識を持つ努力がなされている。教師間の経験差、年齢差による考え方の違いという課題がある一方、園内研修の充実、会議での積極的な意見交換により、相互理解を図っている。本年はコロナウィルスの感染状況も少し落ち着きをみせ、園児主体の催しにはたくさんの保護者が参加され、活気のある催しとなった他、保護者主催による夏祭りや音楽鑑賞会など情操教育に適した会が催され、子ども達の園生活が豊かなものになった。

令和5年7月21日

評価委員指名（児島 秀樹）